

アンケート結果

公開講演会にご参加くださり、ありがとうございました。

講演内容の代表的なご質問に対して講師の先生方に回答して頂きましたので下記の通り報告いたします。また、その他のご意見、ご要望などを参考にさせて頂きまして、今後も多くの方に関心を持って頂けるように、地球水循環研究センターの研究を分かりやすく紹介していきたいと思っております。

平成 27 年 2 月 10 日

名古屋大学地球水循環研究センター

■ 演内容に対するご質問・回答 ■

Q. 想定外という言葉がうまく表現されていたと思います。今でもコストとバランスを考えると 100 年 500 年単位で起こる MAX に対応する考え方はあるのでしょうか？ Max の想定？をどこに置くかがキリがない気がする。経済学からみる防災が必要。

A. 地球水循環研究センターからの回答

水災害に直接関係する河川の治水計画では、基本方針として 100 年に一度の豪雨による洪水に対しての（流域の）治水安全度を設定しています。そしてご指摘のように、経済学的な観点でリスク評価をし、防災対策が行われています。一方、人々の意識と行動を改革し、減災につなげる試みも進められており、今回の公開講演会はその点に着目した次第です。

Q. 理論は理解したけれど、具体的な対策までは話せないと思った。今は情報過多だからこと判断や現実の行動をどうするか悩むのではないか？人文系の政策研究者が加わるといいと思います。個人の選択と社会の選択は別だと思えます。

A. 地球水循環研究センターからの回答

鋭いご指摘です。必ずしも、個人の選択が社会全体の選択につながらないため、今後は人文系の研究者や政策決定者を交え、防災・減災のガバナンスについて、じっくりと議論する必要があります。今後の公開講演会の企画にも生かしたいと思っております。ご指摘ありがとうございました。

Q. 台風が発生しない海域がありますが、その理由を教えてください。（赤道直下、ペルー沖、南大西洋）

A. 坪木教授からの回答

台風（熱帯低気圧）が発生するためには、いくつかの条件が必要になります。その中で重要なものは、海面水温がおおよそ 26 度より高いことがあります。地球上の海面水温は場所によって様々です。たとえばペルー沖は冷たい海水が湧き上がっているところですので、海面水温が低くなっています。また、南大西洋も海の温度が低い領域です。このため、これらの海域では、台風は発生しません。一方で、西太平洋は、地球上で最も海面水温が高いところなので、たくさんの台風が発生します。

もう一つの重要な条件は、鉛直方向の地球の回転成分があることです。別の言い方をするとコリオリの力（偏向力）があることです。赤道上では地球の回転成分のうち鉛直方向のものは零になります。このため台風は発生しません。やや専門的な説明になりましたが、別の言い方をすると、北半球では低気圧は反時計回り、南半球では時計回りになります。その境目の赤道ではどちらにも回らない、すなわち低気圧にならないのです。このため赤道上では台風は発生しません。

Q. 「環境災害」という用語が何をさすのか、最後まですっきりしませんでした。

A. 地球水循環研究センターからの回答

最初の趣旨説明において、環境災害は「人の行動が直接的・間接的に関わる自然災害」と定義しました。例えば、集中豪雨や極端気象によって発生する気象災害は、気候変動（地球温暖化）が関わると言って過言ではありません。温暖化は人為による温室効果ガスの排出が引き起こしたものですから、近年の気象災害は環境災害と言えます。また地震災害や津波災害は、住居の構造と立地が関わります。人がどこに住むか、どのような建物を建てるか、という点で、環境災害と言えます。そして火山災害も、噴火予測と人々の登山行動が関わりますので、環境災害と言って良いのではないかと考えられます。

Q. 最近 50 年間で上陸時に伊勢湾台風を下回る気圧のもの（例えば室戸や枕崎 etc）が生まれていないです。又、発生個数は毎年ばらつきがあるなど、温暖化で発生数が少なくなるという見解はどう判断すればよいですか？

A. 坪木教授からの回答

台風の発生個数や強度は毎年大きなばらつきがあり、室戸台風や枕崎台風はその最も極端なものになります。現在の温暖化の段階では、台風（熱帯低気圧）に対する影響はこの大きなばらつきのため、はっきりとしたことをいうことができないということです。研究者のあいだでも温暖化の影響が台風などの熱帯低気圧にみられるという考えとそうではないという考えの両方があります。しかしながら、今後、今世紀末にかけて平均気温が 2~3 度上昇すると、海面水温も同様に上昇しますので、台風の個数が減って、強い台風の強度はますます強くなるという結果が示されています。

■ その他講演会全般に関するご意見・ご要望 ■

○ 多くの方がカメラで撮影されており、シャッター音等が気になり集中できなかった。次回からは規制してほしい。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

ご指摘ありがとうございます。今回は、司会者からそのように聴衆にお伝えしようと思います。

○ 講演の先生の著書を当日買えるようにしてほしい。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

ご提案に感謝致します。今回はそのような企画も検討したいと思います。

○ パネルディスカッション部分の質疑応答内容も HP などで公開して頂ければと思います。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

ご提案に感謝致します。今回は、ビデオ撮影等を行い、パネルディスカッションも含めて公開できるように検討したいと思います。

○ 地球温暖化を中心としたテーマで公開講演会を開催してほしい。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

次年度以降の公開講演会のテーマ検討に際し、頂いたご要望を参考にさせていただきます。

○ 時間が短い事もあり、メモを取る時間がないまま画面が切り替わってしまう。

○ スライドがすぐに切り替わってしまうのが、惜しいです。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

ご指摘ありがとうございます。次回以降の講演者に、画面の切り替えに慎重になるよう、申し伝えます。

○ 各講演の内容についてパワーポイントの所を書いたものが配布されると後日、聞いた話を他の人に話し伝えをする時に参考になりますので、ご一考ください。

○ これまでのようなレジメがあるとよい。

▼ 地球水循環研究センターからの回答

今回は講師の方からの要望で、発表資料の配付を辞退させて頂きました。次回以降は、発表要旨やスライドの印刷物を配布できるよう、可能な範囲で検討したいと思います。